

## 傾聴の美德

魯 香 芝(ノ・ヒヤンジ)

はじめまして。私はテグから来た高校3年生ノ・ヒヤンジと申します。今日はコミュニケーションについて自分の考えを語ってみたいと思います。皆さん、「話し上手は聞き上手」という言葉をご存じでしょうか。上手く話せる人は話を聞くのも上手いという日本のことわざです。しかし、このことわざを少し変えた「話し上手の聞き下手」という言葉もあります。このような日本のことわざからも分かるように、残念ながら「話し上手」ばかりの現代社会で「聞き上手」を見つけ出す事は難しいのです。

まずは私の話から始めましょう。コミュニケーションに関する話題を持ち出してはいますが、実は私が一番苦手な事がまさにそのコミュニケーションなのです。私は内気で、人前に立つ事がとても不得意です。このような性格ではこれから社会で生活していけないのではないかと心配した時期もありました。しかし、幸いにも私は自分に合った会話の方法を見つけ出し、なんとか人々に混ざり込むことが出来ました。その方法とはつまり、良い話し手になるよりも良い聞き手になることです。

何故我々は良い聞き手になるべきでしょうか。最近通信技術の発展により老若男女誰しもが自由に自分を表現できるようになりました。これは確かに良いことなのですが、諸刃の剣でもあります。自由な自己表現が可能になった一方、人々は自分の話ばかりで他人の話を聞かなくなりました。違う意見を持った人々が衝突し合い、あちこちで争いが絶えません。私はこのような現状がとても悲しくて、人々の目や耳を塞いでいる何かを取り除きたいと思いました。その最高の方法が傾聴だと思います。聞くとはどういうことでしょうか。相手を煽って相槌を打つだけの事なのでしょうか。それは違うと思います。聞くとはむしろ更なる効果的な自己表現の方法と言えます。相手に話す機会を与える代わりに、相手を把握する時間を得るのです。相手を少しでも把握してから話を振ると、相手に一番効果的な話を選び最適のコミュニケーションを取ることができます。また傾聴することで相手に良い印象を与え、逆に相手の傾聴も引き起こせるので一石二鳥です。

しかし、最も重要なのは傾聴こそが他人に対する理解と配慮の基本だという事です。人を知る為にはその人の話を聞くべきです。その人の噂や文面による情報に大きな意味はありません。人と向かい合い目を合わせ、その人の口から出てくる話をじっくり聞いて初めてその人という人間と心からわかり合えると思います。古臭いと言われるかも知れませんが、コミュニケーションは傾聴することから始まるのです。

何人もの見知らぬ人々が行き交う世の中で、誰も他人を完璧に理解する事は出来ません。それでも、会話を通じて互いに少しずつ近づくと事は出来ます。その為真っ先に備えるべき美德は他人の話を快く聞こうとする姿勢、すなわち傾聴の姿勢だと思います。全ての人々が「聞き上手の話し上手」になることを私は願っています。ご清聴ありがとうございました。

## 私はもう諦めません

진수연(秦秀沅)

初めまして。私はジンスヨンと申します。

皆さんは何かを諦めようとしたことがありますか。私にはシンガーソングライターになりたいという夢がありますが、私はその夢を諦めようとしていた時期があります。

今日はそのお話をしたいと思います。

私は数年間、いじめ被害に遭っていました。それが原因で過呼吸を起こしたり、自分を傷つけたり、日常生活ができないほど、心を病みました。嫌なことがあったら立ち向かわず、そこから逃げようとする人になってしまったのです。結局、自分に自信をなくし、歌手になるのを諦めようとしていました。

そうやって夢を諦めかけていた頃、私はある日本のアイドルを好きになりました。勇気を出してそのアイドルのイベントに行きましたが、そこで忘れられない経験をしました。好きなメンバーに韓国から来たことを伝えた瞬間、そのメンバーが先に私の名前を呼んでくれたのです。びっくりしました。イベントから2カ月程前、私のSNSにそのメンバーがいいねを押してくれたことがあります。当時は何かの間違いだと思っていました。でも、そのメンバーは私のことを覚えていて、いいねを押したのは歌手を目指してると書いてあったからだと言いました。そして、「仕事上で会えたらいいね」と励ましてくれました。その時、私は夢を諦めようとしていたことがどれだけ馬鹿げたことか気づきました。そして、心に決めました。「シンガーソングライターになっていつかこの人と一緒に舞台に立つ」と。

その日から私は少しずつ変わり始めました。さぼりがちだった病院にもちゃんと通うようになって、自分を傷つけることもしなくなりました。カメラが苦手ですずっと避けていたオーディション用の宣材写真も撮りました。嫌なことにも立ち向かいたいという気持ちが芽生えてきたのです。

実は、スピーチの原稿を書きながら何度もためらいました。人前で自分を語るのが怖かったからです。この話をしているのか、冷たい目で見られるのではないかと心配しました。

それでも今日、私がここに出られたのはシンガーソングライターになりたいという夢があるからです。人前で自分を出せない人はシンガーソングライターにはなれません。どうしても克服しなければならぬことなんです。

これからもきっと乗り越えなければならない壁がたくさんあると思います。でも私はもう諦めません。私はこの語学力を活かして、日本と韓国で活躍するアーティストになりたいと思います。そして、あの人が私に力をくれたように、私も辛い経験をしている人に力を与えたいです。

私が夢を叶えられるように応援してください。

ありがとうございました。

## 「夢」

玄尚旻

こんにちは、私の名前は玄尚旻です。今日は、夢について語っていきたいと思います。

皆さんの夢は何ですか？

今の私の夢はアニメーターになることです。アニメーターとは、アニメーションの絵を描いて動かす職業のことをいいます。私が絵を描き始めたのは、小学二年生のころでした。

絵の宿題を提出したとき、先生とクラスメイトたちに褒められたのがうれしくて、絵が好きになり、絵を描いて生きていきたいと思うようになりました。高校へ進学してからは、ネットに絵を投稿し始めたのですが、あまり良い評価はされませんでした。サークルの先輩にも、同じくネットに絵を投稿していた人がいました。でもその人は、私とは逆に、絵を高く評価され、たくさんの人々に認められていました。

その先輩と、自分を比べながら私は、強い劣等感に打ちひしがれ、一時は絵を嫌いになりそうな時もありました。

でも他に取り柄がなかったので、昔からやってきたからという義務感で、絵の練習は続けていました。それは、苦痛でした。やるというより、やらされる感覚で、いやいや描いていたのを覚えています。そんな高校二年のある日、自分の好きなアニメのアニメーターを取り上げたラジオを耳にしたのです。その方は、アニメーターになったきっかけとして、「絵を描くのが好きだから、どうせなら絵を描く仕事がしたいと思ってアニメーターになった」と言っていました。

ただ好きだからと言う、その単純な理由は、私の忘れていた絵が好きな気持ちを思い出させてくれました。拙くても、好きな気持ちがあるなら、やってみてもいいのではないかと思ったのです。

それと同時に以前から日本で就職したいと思っていたこともあり、私は日本でアニメーターになりたいと思いました。私にとっては、未知への挑戦に等しく、不安でならないのですが。

でも自分の好きなことを仕事にするためと思うと、前向きになれる。

皆さんも、夢の一つや二つはお持ちではないかと思います。

私達は、大体、自分の好きなことを夢として抱きます。でも、疲れたり、度重なる失敗だったり、スランプだったり、他に好きなことができたり、単に飽きてしまったりなどの理由で、夢が変わったり、夢を諦めたりすることは珍しくありません。ある意味、好きなことを好きなままに続けることはとても難しいものかも知れませんね。自分の意思によって、どうしてもやむを得ない理由で、好きではなくなったのなら、それは個人の自由として尊重すべきことだと思います。でも他意だったり、否応なく嫌いになりそうなとき、心がけるべきは、自分であることではないかと思います。

周りに振り回されず、自分の心に素直になって、自分の思う、自分らしい夢を貫いてみては如何でしょう。

以上でスピーチを終わりたいと思います。お聞きくださりましてありがとうございました。

## 私の緑パスポート

崔允瑞

みなさんは小さなきっかけで人生が変わるという言葉信じますか。

2年前の私にこう聞くと、多分、「信じない」と答えたかもしれません。

しかし、今の私なら、「信じるよ」と堂々と答えられます。私が実際にこのようなことを経験したからです。時は2年前の夏、当時高校一年生だった私は未来とか将来について本当に悩んでいました。

型にはまった受験勉強も、よく思われるための内申書にもうんざりしていました。

周りの友達はみんな自分の道を歩んでいるのに、しっかりしているのに、このように悩んでいる、何一つしっかりできない自分を憎みました。

そんな時、偶然、友達の勧めで『井戸の外的女子高生』という旅行エッセイを読むことになりました。この本にはある作家が高校二年生の時、アルバイトをしたお金で韓国 of 色々な地域や海外を一人で旅行したエピソードが書かれていました。

この本を読んだ後、私は自分を探すため、自分の道を歩むため、その作家のように自分探しの旅行をしようと決心しました。旅行先は普段興味があった日本の東京に決めました。

今まで一生懸命に貯めた貯金をおろし、航空チケットを買いました。

周りから高校生一人では危ないと心配され、一人で行くのがちょっと怖かったけど、自ら何かをするというときめきが私を導きました。

東京の旅行で、映画や本みたいに何か特別なことをしたとか、特別な事件があったのではありません。ただ私は、人気の観光地より私が好きなことに集中して、自分と真剣に向き合うための旅行をしました。例えば、駅のベンチに座って通り過ぎる電車をずっと見ていたり、本屋に入って意味の分からない本を読んだり、映画館で映画を見たりしました。

そして、1日が終わり、ゲストハウスに帰ると、国籍も言語も違う人たちが私を親しげに迎えてくれました。色々な人たちが赤の他人の私の話を熱心に聞いてくれました。その人たちの優しい言葉に励まされた私は、その時、心の痛みを癒せるのは人しかいないということを感じました。

そしてまた、もっとたくさんの人と話し合いたい、もっと広い世界を経験してみたいと思いました。

私が人々に癒されたように、いつか私も人々の話や悩みを優しく真剣に聞き、人の痛みを癒せる人になりたいと思いました。

今、私は、このような人になるために、多様な経験や勉強ができる日本への留学を決意し、一生懸命に勉強しています。また、将来、人々の心の病気を癒す臨床心理士を目指しています。

今、私にこのような目標ができたのは、自分と真剣に向き合おうとした結果だと思っています。

もし、ここに自分自身に自信がない人や将来のことで悩んでいる人がいるなら、どうか自分の心の声に耳を傾けてください。ただ何となく「あ、これいいな」と感じることで、小さな興味でも、大丈夫です。心の声に素直に答えると、きっと未来の扉は開くと思います。

「アンモニアを合成したハーバーは尊敬されるべき人物なのだろうか。」

吳炫周

皆さん、フリッツ・ハーバーという科学者をご存知ですか。

ドイツ人科学者であるハーバーは、空気中の窒素からアンモニアを合成する方法を発見した功績で、1918年にノーベル化学賞を受賞した人です。当時は、人口が急増していましたが、食糧生産はとうてい人口増加に追いつくことができない状況でした。アンモニア合成というハーバーの研究のおかげで、化学肥料の大量生産が可能になり、人類を食糧危機から救うことができたのです。今、私たちが飢え死にすることなく生きられるのは、ハーバーのおかげだと言っても過言ではありません。これだけでも、ハーバーは人類に多大な貢献をした偉大な人物だと言えるでしょう。

しかし、ハーバーは果たして尊敬される価値のある人物だったのでしょうか。

ハーバーは二つの顔を持った人でした。人類を食糧危機から救ったアンモニア合成は大成功でしたが、第一次世界大戦中には、毒ガスを開発して多くの人を死に追い込んでしまいました。アンモニア合成で食糧の大量生産を可能にしたのは、ノーベル賞受賞という偉大な業績だったことには間違いありません。でも、彼は科学者としての使命より、戦争に勝つことだけを考え、祖国のため大量殺傷武器を開発したのです。もちろん国のため、自分の名誉のため働くのは素晴らしいことです。しかし、科学というのは「諸刃の剣」のようなもので、科学者にはさらに厳しい倫理観が求められるはずで、ノーベルやアインシュタインの業績が、人類を威嚇するものになってしまったのは否定できません。しかし、彼らは人類のための純粋な研究をしたのに対して、ハーバーは最初から人を殺すことだけを目的にしました。「平和の時は人類のために、戦争時は祖国のために」と言い、「いかなる形であれ死はただの死である」と、自分の研究を正当化しました。戦争に巻き込まれたのは、一人の人間としては不幸だったと思います。でも、「毒ガスを使うことで早く戦争を終結させることができれば、無数の人を救うことができる」という彼の信念には、納得できません。ハーバーは祖国、ドイツのために毒ガスを作り、第一次世界大戦で多くの人を死なせました。ユダヤ人である彼は、自分が死んだ後、その毒ガスで数百万のユダヤ人が虐殺されることを想像したのでしょうか。

人類を飢餓の危機から救った偉大な科学者。その反面、人類を滅亡に追い込む毒ガスをつくり出した殺人者。これがハーバーの二つの顔です。科学だけが一人歩きをしているこの時代にどう付き合っていくべきか、我々は混乱しています。私はハーバーの歩んだ人生を通じて、科学者の使命や倫理についていろいろ考えさせられました。皆さんは、どう思われますか。

## 私の故郷

申峻熾

はじめまして、私は今回スピーキングコンテストに参加することになった、申峻熾と申します。今日、私は皆さんに私の故郷について発表したいと思います。

私の故郷はソウルの左側にある、金浦というところですよ。私が通った小学校、中学校、そして、いま通っている高校も、全て金浦にあります。私が小学生だったころのことですが、小学校の前には水田と畑が沢山ありました。小学校は小さな丘の上でありましたから、そこから見る風景は、広い野原にある水田と畑でした。今、学校の前は、アパートとマンションに埋め尽くされています。その変化が行われ始めたのは、私が4年生だった頃のことでした。次々と建物と人々が増えてきました。来年には、夢にもよらなかった地下鉄まで完成される予定です。地下鉄だけではなく、バスも多くなって、今は、バスに乗り遅れても、そんなに待たされなくて済むので、便利な交通環境とはやはりいいことだと思いました。このように、私の故郷は田舎から都市へと一歩ずつ進んでいます。

しかし、まだ、そうではない地域も、多くあります。金浦の北側の地域がそうです。あそこは、北朝鮮と接していて、今までもあそこには軍隊と鉄柵がずらっと立ち並んでいます。それであそこは開発がなかなか進まないのです。私は、学校の遠足であの地域を訪れて、望遠鏡で鉄柵の向こう側を見ました。その時、私は単に景色だけではなく北朝鮮に住む人々を見たことがあります。彼らは我々韓国人と外見も似ていて、言語も同じなのに、互いに争っていることを私は残念だと思いました。でも、いつかは変わるでしょう。私がそう確信したのは、今年四月二十七日のことでした。その日、韓国と北朝鮮の頂上が会えた歴史的な頂上会談が行われました。アメリカのトランプ大統領はSNSで今年内まで、朝鮮戦争を終らせるつもりだと述べました。戦争の恐れがなくなること自体が、金浦に住む人々にとって幸いなことです。それだけではなく、戦争が終わると金浦の北側の風景も北朝鮮の景色も変わるでしょう。鉄柵がなくなり、朝鮮半島の南北が互いの方へ自由に行ける交通路ができるのも無理ではありませんし、その交通路に金浦地域が含まれるのも不可能ではありません。まだ、実現したことではないですが、北朝鮮との間に自由に往来できるようになるかどうか思うことだけで私の胸がドキドキしてきます。しかも、韓国のソウルからドイツのベルリン行きの列車に乗って、ヨーロッパ旅行をすることもできるでしょう。韓国は半島国家でありながらも、北朝鮮に遮られ大陸と繋がれることができませんでした。過去60年間失われていた大陸と海洋の連結を取り戻すことは、韓国だけではなく、東アジア地域の諸国、ひいては世界平和にも朗報です。朝鮮半島に再び平和が訪れたら、金浦は今より平和の中で発展することは当然のことだと思います。平和の中で盛んでいる金浦を皆さんに紹介いたせる日が来ることを私は待ち望んでいます。

ご清聴ありがとうございました。

## 「共感能力ゼロ」

洪道 暁

皆様、こんにちは。僕は大邱の啟聖高校三年のホン・ドダムと申します。

本日は僕が小さい頃から抱えていた問題、そしてそれを克服するために僕が何をしたのかについて皆様に話させて頂きたいと思います。話に先立って、僕の小さい頃の夢は心理相談師だったということをお知らせします。人の心に興味があった僕は人と話し合うことで他人を理解したいと思っていました。小さい頃、僕にはそれまで気付いていなかったある問題がありました。それに気付いたのは小学生の頃です。自分の考えというものができ始めた頃、僕は友達に相談に乗って欲しいと言われて彼と話していました。好きな子がいるとか、そういった類いのお話だったと思います。

この時僕は何かの違和感を感じました。僕は友達が言っていることが分からなかったのです。言葉が分からなかったわけではありません。彼が言っていることに全く共感できなかった僕は「あ、そう」としか言いませんでした。そしてそれが彼を怒らせてしまい、彼とは大喧嘩をしてしまいました。

僕がこの問題を気にするようになったのはこの時からです。人と話すときに何も感じられなくても笑い、意味のない返事をしたりしました。友達との会話ではいつも共感できず、友達を怒らせてしまうことが多かったです。なので、僕は小学校ではあまり友達がいませんでした。中学校に上がっても僕の問題はあまり良くなりませんでした。クラスの友達と話す度に両方ともイライラしたり、喧嘩になったりして、クラスでは「無愛想なやつ」と呼ばれたりもしました。

そこで僕は「これではダメだ。どうにかしないと」と思って学校の相談の先生のところへ行きました。先生は僕の話聞いてある心理検査を用意してくれました。検査の結果は「共感能力ゼロ」でした。少し予想はしていましたがまさかゼロが出るとは思いませんでした。この日僕は自分の夢を諦めました。心理相談をしたいという夢は人との共感が第一条件なのに人と共感できない僕には無理だと思ったのです。しかし不思議とこの日から僕は人の心について書かれた本を読み始めました。先生との相談で自分の深刻さに気付かされた僕は友達と話すことだけでもできるようになりたいと思ったのです。僕が思いついたのは他人の真似をすることでした。そして人を真似するために人を観察し始めました。他の人たちは人と接する時にどうするか。この観察をずっと続けました。そして中学校二年生からの僕は変わりました。まだ共感することは難しかったのですが、「俺は共感できている」と見せることで、他人との関係もかなり良くなりました。相手に正しく反応するために人の言うことをよく聞く習慣もできました。高校に入ってからさらに良くなりました。友達と過ごす時間が長くなり、話しているうちに自然に良くなったのだと思います。「クラスのムードメーカー」だとも呼ばれました。今思い出してみると、人とのコミュニケーションはとても難しいことなのだと思います。自分の問題に気付いてから今までこれだけの時間がかかりました。この場にも人と話すことが苦手な方がいらっしゃるかもしれませんが。しかし僕は人とコミュニケーションを取ることは自分次第だと思います。「共感能力ゼロ」も「クラスのムードメーカー」になれました。

長い話、お聞きくださってありがとうございました。

## 友達契約

金東俊

私は、人との付き合いがすごく苦手です。そして、その数少ない人付き合いの中で、友達を作ったとき、まるで、「友達という名の利益関係の契約」を結んだような気がします。

私が今から話したいのは、その「友達という名の契約」、「友達契約」についてです。

「友達」、この二文字を聞いて、皆さんは、どのような人を思い出しますか。普通の場合、親しい人、或いは信頼できる人を思い出します。ですが、私の場合、この言葉を聞くと、なぜか「契約」という言葉が浮かびます。

まず、「契約」とは、何を示す言葉でしょうか。人々は、日常の中で色々な「契約」をし、或いはその契約を破棄します。例としては、携帯の契約や家の契約のような契約などがあります。辞書を探してみると、「契約」という言葉は、「二人以上が何かの約束を結ぶ行為」と出ています。ですが、この「契約」の意味は、世間ではあまり使われていないと思います。世間で使っている「契約」の一般的な意味は、「信頼の名の下に、互いの利益を求めあうための一連の行為」です。事実、国と国の間で生じる契約は、一般的な意味で解釈される場合が殆どで、人と人との契約においても辞書的な意味より一般的な意味を、人々は好みます。

私が「友達」という言葉を聞いて、この「契約」という単語を連想する理由は、その独特な関係にあります。「友達」という関係は、互いに信頼し合い、その中で何らかの結果があり、その結果は互いの利益になります。これは、互いの利益を求め、信頼の名の下にそれを成し遂げるといって、契約の一般的な意味と合致します。つまり、私たちが結ぶ「友達契約」において、「人」は「契約者」であり、「友情」は「契約の結果」と言えます。そして、その「契約者」は「契約の結果」である「友情」の名の下にて、互いの利益を求めあいます。その利益は計り知れないほど大きく、その利益は、私たちを取り巻く人間関係の中の土台となっていると言っても過言ではありません。

ここでの「利益」、この言葉は「自分に有利な物、もしくはそれに値する事」という意味で使われています。それでは、「友達契約」において、「利益」と呼べるものは何があるのでしょうか。様々な利益がありますが、私が最も重要だと思う利益は、「友達契約」の結果である「友情」だと思います。なぜなら、「友情」は他の利益を中心として存在しているからです。友達関係において、「互いに頼り合うこと」や「相手からの信頼」のような利益、増しては「友達契約」自体すらも、「友情」を中心として存在しています。この利益は、社会構成員という存在を作る根本的な要素でもあり、そして、国と国の間で生じる契約においても、この「友情」は、深く関わっています。実際、現代において、国同士の戦争や社会構成員の間で生じる分裂は、「友情」がなくなって生じる場合が多いです。

私たち高校生は「ひたすら競争を強いられるきつい時代」に生きています。ですが、この時代に生まれた私たちであるからこそ、この「友達契約」を基に、そして、「友情」の名の下にて、社会を作り上げる必要があるのではないのでしょうか。

ご清聴、ありがとうございました。

## 現代人のコミュニケーション

李多殷

皆さん、こんにちは。私はイダウンと申します。

私は今日、皆さんに現代人のコミュニケーションについてお話ししたいと思います。

皆さんは、SNSをしておられますか。私がこれを質問した理由は、現代に現れた一番新しいかつ一番多い影響を及ぼしているコミュニケーションの取り方が、このSNSだと思ったからです。今の時代に住んでいる私たちは、facebookやtwitterなどのSNSを通して、自分の周りの人たちだけでなく、遠くに住んでいる人たちとも簡単にコミュニケーションをとれるようになりました。特に、最近はそのようなSNS上で出会った人たちと仲よくなったと言う話もよく耳にします。勿論、このような方法で、自分と同じ趣味を持っている方と話を交したり、日常生活の中ではけして出会うことも出来ない幅広い分野の方々と出会えるようになったのは素晴らしいことだと思います。

しかし、私たちはこのSNSに気を取られすぎて、もっと大事な何かを忘れているのではないのでしょうか。私たちがSNSを使用する目的の一つは、他人とのコミュニケーションをとるためです。しかし、自分自身や周りの人たちをよく考えてみてください。SNSが、実際にあなたの側にいる人たちとのコミュニケーションを妨害しているのではないのでしょうか。

私は、このスピーチを準備しながら、自分と周りの友達がSNSによってどのような影響を受けたかについて考えてみました。すると、私は、自分が知っている中で誰よりもSNSを好きな友達が一人、頭の中に浮かびました。その子と初めて出会って仲よくなったのは中学校1年生の時で、その時の彼女は、まだSNSに今ほどはまっていませんでした。その頃の彼女と私を含んだ4人の食事後の時間は、主に話が面白くて上手な彼女を中心としてお喋りをする時間でした。しかし、彼女がSNSにはまって以来、彼女は夜も寝ないでSNSばかり見ていたのか、お喋りの時間だった昼休みの時間に彼女はいつも寝るか、または、起きていてもSNSだけをいじっていて、私たちと話す時間はどんどん短くなっていきました。その頃、私を含んだ3人は、まるでSNSに私たちの友達を奪われたみたいだと言う話しをよくした覚えがあります。皆さんは私のような思いをしたことはありませんか。もしくは私の話を聞いて、皆さん自身が友達や家族にこのような思いをさせたかもしれないという心当たりはありませんか。

私たちが住んでいる今の時代は、コミュニケーションの取り方の飛躍的な発達により、ネットを通して時間や場所をとわず、世界の誰とでも簡単にコミュニケーションを取れるようになりました。しかし、何よりも重要なことは、遠くに住んでいる趣味が同じだけのネット上の人と話すことではなく、あなたの側にいる家族や友達とのコミュニケーションをとることではないのでしょうか。私のこのスピーチが、皆さんにとって、自分自身は果たして周りの人たちとのコミュニケーションに疎かになっていないかどうかについて改めて考えてみる切っ掛けとなることを望みます。以上、ご清聴頂きありがとうございます。

## 私を起こして、

朴珉亨

私には夢がありません。こういと、あの子は何を言っているのかと思う方もいらっしゃると思います。高校生にもなって、夢がないというのはきっとあまり良くないと思われるでしょう。自分の夢を探し、叶うために頑張る人たちに比べると、情けなく見えるかも知りません。もちろん、昔は私にも夢というものがありました。子供のころにはいろんな夢を見ました。美術の先生、バレリーナや声優。しかし、それらは、一瞬跡形もなく消えてしまいました。学ぶための費用の問題や、才能の低さを感じて挫折するなど、様々な理由がありました。なによりも、壁にぶつかるたび、立ち上がって戦うことができない弱い自分こそが、一番の原因でした。だからといって夢がないままでは嫌でした。周りのみんながそれぞれの夢を見つけていく姿を見て自分だけが遅れる気がしました。だから、夢をなくすたびに、慌ててまた違う夢を探し回りました。そうやって探し出した夢は、まともな夢のほうがありません。探してはなくし、また探すことを何度も繰り返しました。そんなことも長く続かなかったです。ある時から私は夢を探すことをやめてしまいました。夢がないとなくす夢もない、もう悲しむことも焦ることもないと思ったのです。あの時は、それでいいと思いました。しかし、気が付いたのです。夢がないとやりたいことすらなくなるんです。何もかもが嫌になって勉強も手放してしまいました。そんな自暴自棄な毎日が続く中、子供のころから日本のアニメが大好きだった私は、いつしか少しずつ日本語がわかるようになっていました。とても些細なことですが、何もできなかったあの時の私にとっては大きな出来事でした。日本語をもっと勉強してみたい、このアニメを字幕がなくても理解できるようになりたい、と思うようになりました。単純な考えかも知りませんが、それをきっかけに日本語の勉強を本格的に始めたのです。もちろん簡単なことではありませんでした。学ぶことを手放した私にとってはひらがなを覚えることさえ精一杯でした。しかし、一生懸命やりました。やっと見つけた、本気でやりたいことを、今度はやり切ってみたいと思いました。徐々に実力も付いてきて、それまで理解できなかった言葉が、少しずつ分かるようになりました。そのたびにうれしいと思いました。高校二年にもなりましたが、私にはまだこれといった夢がありません。しかし、もう大丈夫です。焦らず、自分に出来ることを少しずつ積み上げていけば、きっと、いつか、これが私の夢だと言えるものが見つかるような気がします。きっとできると、私は信じています。今回の大会が私に、その夢に近づく一歩になってくれるはずです。そのために今、私はここに立っています。今まで自分に本気になれる夢がなかった私に大事なきっかけになると 생각합니다。私にとってこの大会は、人生のモーニングコールになるはずです。

## 翻訳の未来

金 珉暲

こんにちは、私は金 珉暲です。今日は皆さんと「翻訳の未来」について少し考えていきたいと思えます。

私は日本語の勉強を始めて翻訳に興味を持つようになりましたが、周りからは冷ややかな目で「これからの時代に翻訳家は必要ない」と言われてきました。確かにあるアンケートで、翻訳家は、翻訳機や人工知能の発達により「将来なくなる」職業の第一位と見込まれています。

そこで皆さんにお尋ねしたいのですが、将来、本当に翻訳と言う職業はなくなってしまうのでしょうか。私は決してそうとは思えません。その理由は主に二つあります。

まず、私が「翻訳家が決してなくならないと考える一つの理由」は、翻訳ほど複雑で繊細な仕事はないからです。

外国語を勉強したことのある人ならご存じだと思いますが、翻訳は「単に直訳すれば良い」という単純なものでは決してありません。

翻訳家が翻訳する際には、翻訳する作品全体を通して、そのテーマや流れ、書いた目的などを正確に読み取らなくてはなりません。そのようにして筆者の意図を明確に把握するのです。次にその筆者の意図を全く文化的背景の違う読み手に正確に伝わるように調整しつつ翻訳作業を行います。

ここが翻訳家の腕の見せ所です。翻訳作業をする際に、翻訳家は、作品の時代背景は勿論、作者がその表現を選んだ理由、隠された意味の有無など外在的な要素を把握すると言った翻訳には直接表れない部分を十分に考慮した上で初めて、正確で美しい文章に仕上げるのです。

そしてこのような手間暇かけて生み出した翻訳は、翻訳家にとって新たな感動と喜びに変わり、その感動が大勢の読者にも伝わることとなります。私は、この点から見て、翻訳も一種の創作活動であると思います。これは、決して機械には真似できない領域だと私は確信しています。

次に言語は数千年の歴史があり、それは常に変化し、これからも発展し続けるからです。機械翻訳は、これまで蓄積されてきた数多くの語彙と表現を、分析して再構築しますが、言葉を的確に運用する上で機械が人間をリードすることはあり得ません。そのように言える根拠は、これまで言葉を「大切なコミュニケーション手段」として守ってきたのも人間であり、新たな言葉を生み出し、それを普及させてきたのも人間だからです。機械には決してそのような能力は備わっていません。

それでは、今後、翻訳にはどんな未来が待っているのでしょうか。私が考える「翻訳の未来」とは、「翻訳機や人工知能と翻訳家が共存して、より素晴らしい作品を生み出していく」と言うものです。人間は機械のように24時間働くことはできません。そこで、機械レベルの翻訳は機械が、翻訳家の領分は翻訳家が請け合い、より効率的にそして人々が感動する作品を世に送り出すのです。私は必ずそのような翻訳家になって見せます。

ご清聴ありがとうございました。

## 「大好きな小説家、乾ルカ」

김민지 金珉志

こんにちは。

私は佳林高校2年生のキムミンジと申します。

皆さんは乾ルカという小説家のことを知っていますか？今から紹介したいのは、私が一番好きな小説家、乾ルカという方です。乾ルカの作品には「ぼくりや」、「森に願いを」、「てふてふ荘へようこそ」、「あの日に帰りたい」などがありますが、そのうち私が好きなのは「森に願いを」と「てふてふ荘へようこそ」です。

どちらもとても優しく、暖かい小説です。強いインパクトはありませんが、2つの小説は静かに、確かな感動を与えてくれます。私が大好きな2つの小説は少しかだけファンタジー要素を持っています。

「森に願いを」には都会の真ん中には珍しい大きな森が登場します。森は何もせず何も言わず、ただそこにあるだけですが、偶然なのか運命なのかその森には傷付き、躓き、砕けてしまった人々がやってきます。

そんな人々を森はただ受け入れるだけです。その森にはいつも森を管理する「森番」という青年がいます。森番は人々に優しく接し、自由に森を歩きまわることが許します。

彼は出会った人々に森の話をします。その言葉はいつも人々に勇気を与えたり悩みを解決するためのヒントになります。彼が意図的にそのようなことを言っているのかは分かりません。

しかし、彼の言葉を読むだけで私も小説の登場人物たちのように勇気を貰うことができます。優しい言葉に心は癒され、小説を読み終わった後には心がとても暖かくなりました。もちろん森番だけでなく、森にやってくる人々からも力を貰えます。

森を訪れるのは就職に失敗した女性や様々な悩みを抱えている高校生、不治の病にかかっている青年など、色々な人がいます。その人々はみんな希望を失い、悩んで苦しんでいました。

しかし森を歩いて森番と話した後から、彼らは少しずつ変化していきます。最終的に悩みや苦しみから解放された人々は笑顔になって森から去っていきます。彼らが悩みを克服していく過程は読むだけで私に勇気と頑張る力を与えてくれました。「森に願いを」は、私がさらに頑張れるように力をくれた素敵なお話なのです。次に、「てふてふ荘へようこそ」はてふてふ荘という家賃の安いアパートに住んでいる住民たちの暖かい話です。

このアパートにはとんでもない秘密があります。それは各部屋に幽霊が住んでいるということです。幽霊たちはホラー映画に出てくるような怖い存在ではなく、見た目は生きている人間と変わりません。ただその部屋の住民とともに暮らす、まるで同居人のような存在です。

この小説にはてふてふ荘の住民たちが幽霊とともに過ごしながら少しずつ成長していく感動の物語が書かれています。「生きているなら、あがいてほしい」この小説に出てくる私が一番好きな言葉です。これは幽霊の言葉で、生きているのにも関わらず希望を失い夢を諦めてしまった人に向かって叫ぶ言葉です。その幽霊は中学生の時に亡くなってしまい、夢があったのにも関わらず努力をする機会

すら得られなかった少年です。

この言葉はまるで私に向かって話しているようで、生きているならまだ頑張れるから諦めてはいけない、ということをお教えました。私がこの大会に出場するまで一生懸命頑張ってこれたのは、その言葉のおかげだとも言えます。辛くて夢も、何もかも諦めたくなくなってしまった時にその言葉を思い出すともう一度頑張れます。乾ルカの小説はいつも私の心を癒し、頑張る勇気をくれます。

一番好きなその言葉を思い出しながら、私はこれからも自分の夢のために頑張っていきたいと思えます。

ご清聴、ありがとうございました。

## 夢追い虫

高等部 曺景倫 (睦曠倫、Mok Kyung Ryun)

みなさんにご自分の人生に価値を与えてくれたものがありますか。きっと答えは人それぞれのはずでしょう。私にとってそれは日本語でした。日本語に出会う前、小さい頃の自分がどんな子供だったのか実はよく覚えていません。それぐらい日本語と私はずっと、家族より親密な間柄として一緒に過ごしてきたと言えるでしょう。

最初はアニメの続きが気になるという単なる好奇心で日本語版を探してみた事がきっかけでした。その中で描かれる日本文化や美しい響きの日本語に心をとらわれ、深い愛情を感じるようになりました。日本に関するものなら分野を問わず興味深く受け入れ、探求の領域をどこまでも広げ、日本語も日に日に上達していきました。特に原書の読書に喜んで挑んでいました。独学ではじめた日本語でしたので最初は一行を読み取ることでさえ大変でした。でも一行ずつ韓国語に訳していく内いつの間にかそれは楽しい日課となって、私の喜びになりました。次第に私は通翻訳の夢を漠然と抱くようになり、外国語高校の日本語科に進みました。そしてこの先成功街道をまっしぐらに駆けるはずと信じていました。

でもそれは崩れ落ちそうな日々の始まりでした。中々手につかない勉強、自分だけが取り残されてるみたいな焦り、そしていつも口先だけの自分の姿に途方に暮れ、暗く深い憂鬱感に飲み込まれていきました。息をする全ての瞬間が苦しみであり、無意味しか感じられませんでした。

ある日限界を感じた私は、今まで顧みなかった自分の心に目を向けてみることにしました。まずプレッシャーや不安などは一旦忘れて自分が見ていた夢についてその意味を考えました。私がずっと望んできた通翻訳とは何だろうか。そんなふうを考えながら過ごしました。そうやってやっと、通翻訳という仕事に自分がもともと持っている事に気付きました。自分とこの世界を繋げるもの、それがつまり通翻訳だと私は思います。そしてそれは両国間の架け橋になってくれる立派なものでもあります。さらに私は、それは両国の視線から物事を考えさせ、一層広い世界に触れさせてくれる機会を与えるものだと思ったのです。そう、私にとってそのチャンスを与える存在はまさしく日本語だったのです。私は日本語が差し伸べてくれた手を強く握って立ち上り、歩き出す決心をしました。再び美しい日本語で書かれた歌を聴き、夏目漱石の「心」など文庫本のページを捲り出しました。それから毎日自分のそのような行動をたっぷり褒めました。自分自身を優しく抱きしめる事にしたのです。このような新たな日本語との触れ合いと褒め言葉はこうやって皆さんの前に立てるよう、この世界とまたしても繋がってられるように私を支えてくれました。

私は日本語と出会って、広い世界への扉を開くことができました。真の夢の意味を考え、自分を肯定することができました。これからも日本語と手を取って、世界と私を繋げる方法を模索していきたいです。

## 日本に行って感じたこと

全エハ(전예하)

今年1月17日から1月21日まで、4泊5日で友達2人と一緒に、日本の大阪に旅行に行ってきました。その時にあったありえない話しについて話したいと思います。

それは1月18日。旅行二日目でした。その日、私と友達は、朝から夕方までユニバーサルスタジオで遊んで、夕方寿司を食べた後、宿に帰ってきました。その後友達と部屋で寝転がりながら休んでいた時、友達が携帯の充電器をなくしたのでコンビニに行かなければならないと話してきました。しかし一人で行くには日本語の実力不足だと話し、私と一緒に行かなければならないと言いました。面倒でしたが、友達が一人で行って、バカなことをして私に電話することよりはましではないかと思い結局一緒にコンビニに充電器を買いに行きました。

そして前にあるコンビニで充電器を買って宿に帰ってきたのですが、宿の建物の入り口のドアを開ける鍵を持っていないことに気が付きました。宿の正門にあるインターホンで部屋番号を押して部屋にいる友達に玄関のドアを開けてほしいと言いました。ところがその友達が"ドアを開けるボタンがどれだか分からない"と言いました。

この時までは、それでも友達を理解しました。'解除'という言葉の漢字は韓国に慣れていません。それで私は友達に下に降りてきてドアを開けてほしいと言いました。しかし友達は今はパジャマを着ているので、このまま下に降りて行くことはちょっと難しいと言いました。そうした中、急にインターホンで女性の声で"以上発生、以上発生"って聞こえました。私は、まさかと思いました。丁度誰かが宿から出てきたおかげでドアが開きました。私はあの"以上発生"という声が私たちと関係ないことであることを願いました。

うちの部屋の前に到着してノックをしたら、友達がとても慌てた表情でドアを開けてくれました。部屋の中にあるインターホンが赤く点滅していました。友達は、ドアを開けるボタンが何なのか分からなくて何でもいいと思い非常ベルを押しちゃったのです。その時私は非常ベルの隣に書いてある'火災'という文字が目に入りました。私は急に腹が立ちました火災の'火'は火。韓国人たちにとっても身近な漢字である'火'が使われていました。火災までは読めなくても、いくら漢字に対する常識がないとしても'火'は、読むことができます。そしてこの世の中のすべての'火'と書いているどんなボタンは、それがミスだとしても非常事態ではないときに押したらだめです。友達はそれをドアを開けるボタンと思って押したのです。

私はこの事件を通して、学校で漢字を学んだり、一人で日本語を勉強したりして、例えば100の実力を持っていたとしても実生活で実際に使おうとしたら、50くらいの実力になってしまうということを感じました。そして単にを暗記ばかりしては実生活でどのように使われるかということが全くわからない。今回のような失敗した経験を通じて学ばなければ漢字や外国語はいくら勉強しても自分のものにならないと思いました。私も今回の事を通して、日本語やまた、他の外国語の勉強をするようになれば、多くの経験を通じ、実生活に生かせる実力をつけたいと思います。

## 一緒に進む未来

金泫志

みなさんは就職に関して悩んだことがありますか？おそらく、1度はあったでしょう。

現在、韓国はしんごくな就職氷河期により困難である一方、日本は43年ぶりの求人難を迎えている状態です。私は今日この場所で、日韓の就職問題の現状をひかくしながら、話しを続けたいと思います。

現在、韓国は「国際通貨基金」からの援助以来、もっとも高い失業率を記録しています。韓国の大学進学率は7わりを超えているため、みんな勤務環境がれつあくである中小企業より大手企業やこうむいんを志望するようになりました。また大手企業ではリストラをするなど、りょうしつな環境で仕事をするのはますます難しくなっていく状況におちいつています。即ち、就職活動をしているみんなが大手企業を志望している一方、中小企業は求人難であり、大手企業のつとめぐちは少ないため、結果的に青年たちは大手企業やこうしゃに就職ができなく、就職氷河期がけいぞくするというあくじゅんかんを招いてしまったのです。こんな韓国とは真逆に日本の労働市場は持ち直しています。

企業の採用意欲が高いため、学生たちは自分に合った就職先を探すことができ、就職率は98%を越えています。一方、日本の青年人口は減少気味で、また引退する人は増えつつあり、労働人口が不足する問題が深刻化するおそれがあると予想されます。このような現象はじゅようときょうきゅうの不一致が招いた結果です。日本の経済はよくなる傾向が表れていて、働いてくれる人材を探しているらしいですが、団塊の世代がみな引退し、労働人口がげんしょうしてしまったので、働く人が足りなくなってしまったのです。以上の通り韓国では就職がむずかしく、日本では人材を探すことに悩まされています。それでは、こんな状況に対し私たちはどう対処するべきでしょうか？このようなことへの対策として、現在日本は外国の若者や外国人留学生に向けた就職博覧会を開催する等、外国人労働者の雇用を勧めています。それ以外にも、KOTRAがしゅさいする日本と韓国の中小企業の出会いの場などが開催されています。

私は、日韓の求人難および求職難の問題さらに様々な分野でのいろいろな問題をこのように助け合っていけばいいのではないかと考えています。

これは韓国の近い未来の姿になるかもしれません。だから、日本や少子化の進んでいる国々の対策などを参考にしたらどうかと思います。最後に私はこれからもこのような問題を注意深く見極めながら、韓国の人々がもっと簡単に日本に就職できるように、

日韓がお互いに協力できるように二つの国を繋いでいく人になりたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

## 旅行が変えた私

金藝珍

こんにちは。私はキムイエジンと申します。どうぞよろしくお願いいたします。皆さんは旅行について考えてみたことがありますか？

私は旅行に行きたくなる時が たまにあります。

気分が憂鬱な時や気分転換が必要なときに日常から離れて楽しさと幸せを感じたくなって旅行にいく想像をたびたびします。

旅行と言うのは何だかと思ってみたんですけど、わたしは、やっぱり旅行を通じて得られるものは忘れられない思い出と新しい経験だと思えます。その瞬間の経験、ときめき、楽しさが長い間記憶に残ったら、たびたび思い出すとき、またわくわくして、また幸せになるんじゃないかと思えます。私は小学生の頃、チェジュドに旅行に行ってきたことがあります。その時の楽しさ、胸がいっぱいになった感じと思い出が今も忘れられなくて、また行きたくくなります。

でも、旅行が私にくれたものはこれだけじゃありません。中学校1年生の時、初めて行った日本旅行は新しい経験を通じて私を変えるようになりました。

日本旅行に行く前、私は小心で自信と勇気がまったくなくて、人に話しかけることさえできなかったんです。日本語を話す前にはいつも“あ、これ間違ったらどうしよう！”とか“ちゃんと話してるのかな？”という心配でいっぱいでした。そのため日本語に対する自信もぜんぜんありませんでした。そうだった私が日本旅行を通じて変わりました。

家族の中で日本語が話せるのは私一人しかなくて、道を尋ねたり、買い物をするなど日本語を使うことはすべて私の役割でした。日本人を相手に日本語で対話することが私にはとても震えて新しい経験になることでした。最初は声をかけるのが怖くて“無視したらどうしよう”という考えだけでしたが、話をかけてみたらみんな親切に答えてくれました。私が道を尋ねたときに日本人から日本語が上手だとほめ言葉を聞いたことがきっかけとなり、自信を持ってもっと頑張って話せるようになりました。短い旅行でしたが、日本語の会話がもっとうまくなった感じがして、嬉しくなりました。それで、日本語の勉強をこれからずっと頑張ってもっと上手に話せるようになろう！と新しい目標もできました。日本語を話す時の不安もなくなりました。旅行を通じて新しい所で新しい人を会って新しい経験をするその課程で人が変わることができると思います。私もたくさんのが変わるようになりました。私にとって中学校1年生の日本旅行は忘れない思い出になり、私が日本語に自信を持つようになった大切な旅行でした。

たとえ不慣れでも、たいくつな日常から離れて、新しい経験をすること、想像だけでもドキドキしませんか？海外旅行とか国内旅行だけではなく、自分の周りで新しい経験を試してみるのもいい旅行になるんじゃないかなと思います。みなさんも体とこころに余裕を持って旅行に行ってみるのはどうですか？ 今まで傾聴してくださってありがとうございました。

## 外見至上主義の社会で生き抜く方法

갈산중학교 李秀珍(이수진)

こんにちは。私は葛山(ガルサン)中学の李・秀珍(イ・スジン)と申します。

こんな晴れの舞台で一体どんな主題でスピーチを致せばいいのか色々悩んでみました。最近話題になっておる北朝鮮との板門店(パンムンジョム)宣言や第4次産業革命などの色んな主題が頭に浮かびました。ですが、私の胸に響かないあんな主題よりはやっぱり、私がいつも伝えたかったけど、ただ胸の奥に納めておいたそんなお話をさせて頂きたいと思いました。すると、私の頭にぴったりの主題が一つ浮かびました。その主題は「外見至上主義による差別と偏見、そしてその中で私達はどう生きて行けばいいのか」です。

私がこの主題を思い出すようになったきっかけはこの前起こったある事件でした。その日は体育大会の日で、私はクラス同士合わせた新しい服を着てわくわくする気持ちで家を出ました。しかし、その後間もなく私のそんな気持ちを台無しにする一言が聞こえてきました。その一言は「服はいいけど、あんな女が着るから嫌らしい」でした。もとはこれよりもひどい悪口でしたが、ただ街頭に立っていた、私のことを全然知らない他人からそんなことを言われた私は上辺は平気な振り、道を歩いて行きましたが、内内では数え切れないほど多い、色んな考えで一杯でした。恥ずかしい、ダイエットしておけばよかったのに、あいつらは何の資格があって私を評価するのだろうか、ああ、もう早く家に帰りたい.....って。

これ以外にも「女はいい所にお嫁に行くのが全てだから、勉強するよりは外見を飾る方が良くない?」みたいな偏見に満ちた言葉や、「なんでそんなに脚が太いの?」、「ブス」みたいな単純な悪口も聞いたことがありました。ですが今この世界はこんな暴言よりもひどい無視と差別、偏見で溢れております。ただ「美しい」人々が得をするだけではなく、マスコミが勝手に作り上げた「美」の基準に外れている「ブサイク」だと思われる人々は無視してもいいという、そんなありえない考えを助長する外見至上主義は本当に深刻な問題だとしか言えません。勿論、美しさを追い求めるのはやむを得ない人間の本能でもあると思います。けれども、たくさんの人々が外見至上主義のせいで私のように傷ついたと思うと、消して間違っていないとは言えません。では私達は、こんな外見至上主義の社会で一体どう生きて行けばいいのでしょうか?

私もまだ完璧な正解を見付かったわけではありませんが、私なりの答えは見付かったようです。まず一番大事なことは外見に対する無視や差別で人を傷つけないことです。そしてまた自身を持つのも重要です。ですが実は、現実的に申し上げると、いくら自身を持っていてもそれだけで外見至上主義による無視や差別が全部無くなるわけではないと思います。人に無視されないよう外見を飾るなり、その無視や差別に耐えられる程強い心を持つなりして生き抜くしかありません。でもそう自身を持って人を傷つせずに生きて行くと、いつかこの社会も少しずつ変わって行くはずだと私は信じます。

どうか、皆様も堂々と幸せに生きて行けるように。

ご清聴誠にありがとうございました。

## 私が思い、そして望む社会

宋叡訢

はじめまして！ピョンチョン中学校に通っているソンイエフンと申します。

今日は少し重い話題について話をしようと思います。

皆さんさんは「最近話題になってるもの」といえば、何が一番最初におもい浮かびますか？南北会談とか色々あると思いますが、今日私が話をするのは「ミートゥー運動」についてです。「ミートゥー運動」はアメリカの有名な映画プロデューサーのハービー・ワインスティーンにセクハラや性暴力の被害を受けた人々がその事実を暴露するために作られたハッシュタグから始まった運動です。今は多くの国でセクハラや性暴力の被害にあったときに告発したり共有するために使われていますが、学校や職場社会などでの職級による序列や間違った社会の認識によりセクハラ、或いは性暴力の被害に遭っても告発が出来ない人々の助けになっています。ですがこのミートゥー運動にも問題点があります。被害者や加害者が有名人じゃないと一般の人々に知られづらいし支持される事も難しく、話題になる事がほぼないということです。最近起こった事件の中にはある女子高校で男の先生が学生たちにセクハラをしていたのに学校側は先生の味方になって生徒達を黙らせようとし、マスコミも取り上げなかったせいでついに生徒たちが立ち上がってその事実をSNSで知らせるというのがありました。私はそれを見てなぜ生徒たちが立ち上がらないといけないのかと思いそして被害者である生徒達が立ち上がらないと解決されない現実に悔しさと怒りを感じました。

私が思い、そして望む一番理想的な社会はミートゥー運動が起こらない社会です。

ミートゥー運動が起きず、職場での職級や社会の間違った認識により起こるこのような問題を解決するため、私達はどうすればいいでしょうか。私の小さな観点から見ると今一番必要なのは正しい教育だと思います。未だに残っている男尊女卑思想や職場社会での職級悪用などによるセクハラが今までずっと起きてたのは教育不足に原因があり、その為に間違った認識がそのまま固まってしまったからだと私は思います。私の学校でも人権教育の時間はありますが、その教育と私達の行動が繋がっていないのが現状です。男女が平等だと言うことはみんな学校などで習う事実ですが行動と繋がらないためミートゥー運動で見られるようなセクハラなどが今現在も起きているのです。だからこそ正しい教育が必要です。私の意見では学校で実際に起きた人権関連の事件をもとに討論などでみんなで語り合っただけで正しい認識を持つような機会を増やすことが大切だと思います。性別や年齢に関係なく学校や会社などで必須的に人権教育を実施して、それを通じて社会的認識を変えていけば、必ずミートゥー運動が起きることは減っていくでしょう。

他人事だと無関心にならないでお互いに努力しあえばきっと社会は変わるはずだと思います。貴重なお時間を頂きありがとうございました。

## [日本の科学教育の現場で感じたこと]

吳辰京

こんにちは。インチョンチョンラム中学校3年生の吳辰京と申します。

今日、皆さんに私が日本の科学教育の現場で感じたことについてお話ししたいと思います。

まず、私が日本の科学教育に関心を持った切っ掛けは、今年の2月に訪ねた東京の上野公園にある国立科学博物館で物理学、化学、生理学・医学分野でノーベル賞を受賞した日本の科学者の功績を記念した展示を観たことです。

展示を観ながら私は「韓国では科学部門のノーベル賞受賞者が0人なのに、どうして同じアジアである日本では22人もいるのだろうか?」と疑問が浮かびました。

考え続けた結果、その答えは「科学教育」にあると思います。

ノーベル賞受賞者22人が受けた日本の科学教育には共通している特徴があります。

日本の科学教育は、主体的で能動的な実験と体験学習を通じて、より生々しい科学を体で感じさせたり、パズルやなぞなぞを解いたりする授業で興味を引きます。

また、こうした特徴がよく現れている場所が国立科学博物館でした。

博物館には観覧者が直接体験できるよう、色々な道具があって、楽しい科学の話を聞かせてくださるボランティアの方々が大勢いらっしゃいます。

私が博物館を訪ねたときボランティアのおじいさんが聞かせてくださった

雲石の話はとても不思議で興味深かったです。

ふと、大嫌いだった科学に興味を感じている自分の姿に驚きました。

そして自然に日本の科学教育と違って韓国の科学教育はどうか考えてみました。

韓国の科学教育は「正解」を探すことだけを目的とする詰め込み教育で子供たちの好奇心を破壊します。また、「実験」を主軸にした理解を求める授業ではなく

「理論」を重視した暗記を求める授業を行うことで生徒たちは興味を無くしてしまい勝ちです。さらに、韓国では科学という学問が世界を理解する視座ではなく、単なる進学のための道具として思われるのがとても残念だと思います。

こうした教え方は創造的科学的科学人材養成する面で致命的であり、国家の発展が遅れる恐れがあります。故に日本、及びほかの先進国の科学教育をかがみとして韓国の科学教育を改める必要があると思います。

ご清聴、ありがとうございました

## 「私にとっての日本語」

한윤라(韓允羅, Han Yunra)

皆さんこんにちは、私はムンレ中学校3年生のハン、ユン、ラと申します。

宜しくお願い致します。

私は今日、私が考える日本語について話したいと思います。私のスピーチを皆さんに最後まで聞いて頂ければ幸いです。

私が初めて日本語に出会ったのは、私が小学校4年生の頃です。偶然入ったウェブサイトでボカロイドというプログラムが歌った歌を紹介していたのです。私はその歌の歌詞も、メロディーも、ボカロイドの声も、全部凄く気に入りました。それから私は毎日、日本の歌を検索して聞きました。

そしてある日、いつものようにパソコンで歌を聴いていたら、アニメの主題歌が流れてきました。そういえば日本のアニメは有名だったな、とアニメを見始めたら、面白くてもっと色んなものを見るようになりました。私の日本語への関心はそうやって高まっていきました。中学校に入学した頃には、アニメを字幕なしで見たい！と思って、日本語の放課後授業を受け始めました。私の教室の先生は日本からきた講師でした。初めは先生と日本語で対話するどころか、ひらがなもまともに覚えられませんでした。でも、1年間ずっと勉強したら、ひらがなやカタカナは勿論、単語と語彙も覚えられるようになりました。

それからの日本語授業は本当に楽しくて、毎日勉強したかったので、家で独学も始めました。

私は日本の音楽と文化などに関心が高かったから、自然に勉強になったようです。

そうやって勉強を続けていたら、将来日本語に関する職業につきたくなりました。

私は翻訳家、通訳士、外交官等いろいろな職業を考えてみました。そして今、決まった私の夢は、通訳士になることです。通訳士になって、他国の人たちがお互いに楽に会話ができるように助けたいです。

そのために私は、高校を卒業したら日本に留学しに行って、一生懸命に勉強するつもりです。

こうやって未来の計画を立ててみたら、突然思ったのです。もし私が日本語に出会えていなかったら、今の私はどんな人生を送っているでしょうか。私には想像もできません。私にとっての日本語は、このようかなり大きい存在であります。そして、私の人生を変えてくれた大事なものでもあります。

学校の先生たちや家族は私に、日本語もいいけど数学みたいな科目をもっと勉強しろと言ったりもします。でも私は日本語も数学と同じくらいに私の役に立つと思っています。好きなことを勉強すると、もっと楽しくなってもっと頑張れます。それに、日本語は日本語だけでも進学できるほど重要な科目です。私はそう考えています。だから、私はこれからも日本語の勉強を頑張っていきたいです。

そしていつかは必ず私の夢を叶えて見せます。そして、家族と私自身の期待に応えたいです。

皆さん、私のスピーチを最後まで聞いてくださって本当にありがとうございました。

私の発表はこれで終わりです。

改めて、ありがとうございました。

## 「私が一番感謝する人」

朴加恩

皆さん、こんにちは

皆さん、今までの人生の中で一番感謝する人を頭の中で考えてください。

誰が浮かびますか？家族や、友人など答えはさまざまでしょう。私がいちばん感謝している人は母です。母の愛とは計り知れないほどの大きさであり偉大なものですが私たちはその愛を身近で当たり前のものだと思い気づけていないため日々感謝の気持ちを伝えられずに生きています。今日は、今まで伝えることができなかつた母への感謝の気持ちを込めて、私の「母」の話をします。

皆さんに、ある会社からのメールが届きました。その会社からのメールには条件さえ合えばぜひ入社してほしいと書かれています。そして、入社をするための条件は次の通りです。

1. 立って仕事をしなければならない。
2. 標準体力以上の体力が必要とされる
3. 基本勤務時間は24時間
4. 休憩時間はない。
5. 料理、医学などの記述を必要とする。
6. 休みはない。
7. 寝る時間はない。

このような7つ、いやそれ以上の条件に合わせて働いてもらいたいと言っています。

皆さんならこの会社に入社しますか？それとも無視しますか？

恐らく、このような条件で仕事がしたいと思う人は誰もいないでしょう。

しかしこのような悪条件にもかかわらず、自分のできるそれ以上の努力と犠牲を惜しまず働いている人たちがいます。もうすでに気づいていらっしゃるのかもしれませんが、この仕事は「母」という仕事です。「母」になるにはとても大きな勇気が必要です。

妊娠から出産に至るまで自分の命を犠牲しなければならない状況が来るかもしれませんし、注意しなければならないことも多いです。そして子供を育てる過程において数えきれないほど多くの犠牲と困難があります。

私の母の場合、妊娠初期の時からひどいつわりや吐き気などの症状で大変だったうえに、私が生まれた後もほとんど寝ずに泣いてばかりの私の面倒を見ることではしばしば夜中に救急車で病院に担ぎ込まれることもあったそうです。それに母は自分の仕事を諦めなくなかったので、出産の後もすぐにまた仕事を始めました。そして私が少し大きくなって自分でできることが増えたら、また弟が生まれ、休む暇もなくまた育児が始まりました。

幸いなことは、私は小学4年生の時までは全校で評判の良い模範生だったので、弟の育児で疲れた母

を喜ばせることができました。しかし、小学5年生の時から模範生と言うには遠くなり、予想のつか  
なかつた問題に巻き込まれてしまって毎日つらい日々を送っていました。あまりにも変わってしま  
った私の姿は両親に多くの失望を抱かせてしまいました。その時私は、初めて母の泣き顔を見まし  
た。当時の母は弟の面倒を見ることでもうすでに体調が崩れ始めていたうえに、私まで学校で問題  
を起こしてしまったことで気苦労が大きかったのです。それから私はもう二度と母を泣かせること  
にはしないと固い決心をし、母に自慢の娘になるためには何をすればいいかなと考えて日本語の勉強を  
始めました。そして私は、日本語の全国大会で優秀な成績を収め、今ここに立っています。

私は、この場を借りて自分の全てを捨てて私を産んでくれて育ててくれて許してくれて信じてくれた  
母にあらためて感謝の気持ちをつたえようと思います。韓国では輝かしい春を迎える5月を家庭の月  
として、家族に感謝と愛の気持ちを伝えます。皆さんも家庭の月を迎え、いつもと変りなく愛してく  
ださるお母さんのために普段伝えられなかつた感謝の気持ちを伝えてみてはどうでしょうか。

ご清聴ありがとうございました。